

## 留学報告書

2015年度 Funai Overseas Scholarship 奨学生  
田口 厚志

アメリカのニューイングランド地方に来てから今年で7年目ですが、夏は毎年寒暖の差が激しいので体調管理が大変です。去年はフットサルぐらいしか体を動かす機会がなかったのですが、今年からジムに通い始めました。いつまで続くか分かりませんが、しっかり運動して健康でいることが今年（人生？）の目標です。今回の報告書では2年春学期の体験をご紹介します。

### 1. Preliminary Qualifying Exam

前回の報告書でも少しふれましたが、PhDプログラムにおいて一番重要な試験が Preliminary Qualifying Exam (PQE) です。博士候補生になるための資格認定試験なのでこの試験に通らないと退学になります。僕が所属する BBS プログラムは2年目の1月から5月までの間に受験することになっていて、僕は2月上旬に受験しました。

他の PhD プログラムでは筆記試験が課せられる場合もあるそうですが BBS の場合は口頭試験だけです。研究計画を教授陣3人の前で発表して研究についての質問、あるいは生物学一般の知識についての質問に答える形式になっています。試験の1週間前には15ページ程度の研究計画書を教授陣に提出する必要があります。

秋学期に受講したクラス (BBS 330) である程度研究計画書の骨格を完成させていたので、本格的に試験の準備を始めたのは1月上旬でした。準備期間は約1ヶ月と短めだったのですが、研究室の同僚やプログラムの同期に計画書の添削や研究発表の練習をお願いしたので当日は自信を持って試験に臨むことができました。結果は合格、条件付き合格（研究計画書の修正、追加の授業履修などが課せられる）、不合格の3種類があるのですが、無事に合格することができました。試験終了後に BBS を担当する教授に聞いた話だと、よほど準備不足でない限り不合格になることはないそうです。僕の同期もほとんどが試験に通ったので、全員の試験が終了した後ワインパーティーを開いて一つの区切りを祝いました。

### 2. 研究の進捗状況

今の研究室に正式に所属して1年が経ちました。秋学期は研究テーマを模索する日々を過ごしていたのですが、春学期に入ってからようやくテーマが決まってきました (PQE のために提出した研究計画書は計画のままで終わってしまいそうです・・・)。研究室が取り組んでいるテーマの一つに細菌の細胞壁合成メカニズムの研究があるのですが、研究室の大半が黄色ブドウ球菌を使って研究を進めています。最初は黄色ブドウ球菌の研究をするのかと思っていたのですが、指導教授と相談した結果肺炎レンサ球菌 (*Streptococcus pneumoniae*) に代表されるレンサ球菌属の細胞壁合成の研究を進めることに。現在は個人的に進めている研究と、同じ研究室のポスドクと共同で進めている研究があるのですが、共同研究の方がまとまってきたので近いうちに論文が出せるよう日々努力しています。

### 3. TA について

アメリカの大学は学期末に学生が授業を評価するシステムがあって、TA（ティーチングアシスタント）も学生に評価されます。ハーバードでは5段階評価で4.5以上だと **Certificate of Distinction in Teaching** という賞をもらうことができるのですが、今回は秋学期にした遺伝学の授業のTAでこの賞をいただくことができました。

BBS プログラムの場合、1回目のTAにはお金が出ないのですが2回目以降TAとして働くと給料が出ます。ただほとんどの学生が研究を優先するので、2回以上TAをするケースは少ないです。またTAの多くは学部生の授業を担当するのですが、学部があるケンブリッジキャンパスは研究室があるロングウッドキャンパスからバスで30分ほどのところにあるので、時間面でも研究とTAを掛け持ちするのが難しいという事情もあります。TAはPhDプログラムによってやらなければならない回数が異なってくるので出願する際には事前に確認しておいたほうがいいと思います。



研究室メンバーとランチ



在ボストン日本総領事主催の夕食会